

ストップ結核ジャパン（Stop TB Japan）アクションプラン

平成20年7月24日

外務省

厚生労働省

I. 概要

- 本アクションプランは、外務省及び厚生労働省が JICA、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）と共同で作成した文書。日本の官民が連携して結核対策の国際協力に取り組んでいくことを表明するもの。2015 年までを念頭に置いている。
- 戦後の結核対策で培った経験や技術を生かして技術支援や人材育成を行うこと、世界エイズ・結核・マラリア基金を活用した国際協力の推進に向けて官民が連携することなどを盛り込んでいる。
- TICAD や北海道洞爺湖サミットのフォローアップ事業として外務省他が7月24日に開催する国際結核シンポジウム（於. 国連大学）において発表した。

II. 主要点

1. 世界の結核情勢

- 結核は三大感染症の一つ（既感染者約 20 億人、06 年の死者 166 万人）。途上国の経済・社会の発展にとり大きな阻害要因。近年、多剤耐性結核の蔓延や HIV との重複感染の増加が問題化。

2. 目標及び実施体制

- MDGs や「ストップ結核世界計画 2006-2015」等の国際目標の達成に貢献すべく、世界の年間結核死亡者数の 1 割（16 万人）を救済することを念頭に置く。

3. 具体的な貢献策

(1) 世界基金を通じた貢献

- 政府：日本の NGO の世界基金支援事業への参画を支援する。WHO 拠出金を活用して途上国に邦人コンサルタントを派遣することを目指す。
- 日本の NGO：世界基金の活動（支援事業の実施、案件形成等）に参加できるよう努力する。

(2) 二国間協力

- JICA と結核予防会は本邦研修や第三国研修の充実を目指す。

<参考>

- ストップ結核パートナーシップ：結核征圧を目指し、「ストップ結核世界計画 2006-2015」を策定した、世界の官民 760 組織が参加するパートナーシップ。その関連組織として昨年末「ストップ結核パートナーシップ日本」や同推進議連が設立された。
- ストップ結核世界計画 2006-2015：2015 年までに結核罹患率及び死亡率を 1990 年比で半減。TICADIV 横浜行動計画はこの目標を達成する取組を支援すると明記。
- MDG 6 ターゲット 8：マラリアその他の主要な疾病の発生率の増加を 2015 年までに食い止め、その後発生率を減少させる。他の疾病と異なり、結核分野ではこの目標を達成できる可能性が高い。

(了)